

22 Hukutana

April 2002
2002年4月

ふくたーな

1. 第143回学振セミナー開催内容
2. 研究報告
3. ホームページ開設のお知らせ
4. 編集後記

第143回学振セミナー

今回のセミナーでは、「アフリカの身体表現」をキーワードに、舞踊と音楽の意味、さらに社会とのかかわりを浮き彫りにしようと、2人の演者による講演とドラム演奏を企画した。

日時 2002年3月16日(土曜日)14時から16時
場所 JSPS Nairobi日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター
参加者 38名

1. 第143回学振セミナー開催内容

演者1 ENDO Yasuko 遠藤保子
(Resident Director 学振駐在員)
演題 African dance and Society
アフリカの舞踊と社会

Purpose of this Seminar セミナーの目的

As is well known, the forms of African dance are many and diversified, and vary greatly depending on geography, language, culture, and ethnic or racial context. African dance is one of the original forms of dance, and together with music, has often been used in place of written forms of language as a means of communication. In this Seminar I would like to talk to you those topics:

- 1) Concept of Dance
- 2) A Panorama of Dance Anthropology
- 3) Characteristics of African Dance
- 4) Case Study (VHS Video Tapes)
- 5) Meaning of African dance
- 6) Fieldwork in Dance: Concerning the Social Utility of Research
- 7) Some Thoughts on Image Technology and Dance Anthropology

In this report I focused on the concept, characteristics and meaning of African Dance.

A. Concept of Dance (舞踊の概念)

Rhythmical movement with social and cultural roots

Dance is rhythmical movement with social and cultural roots, and remains distinct from the economic or productive side of society. This detachment from the productive elements of society is crucial to my understanding of dance. Certain rhythms arise naturally from the repetitive nature inherent in aspects of daily life such as those of farming or fishing. However, I do not consider this form of rhythmical movement to be dance in any sense, since it is based in productive processes. While dance may take many of its movements from the action of production, it differs in that it is ultimately not a part of any such process.

Human physical expression (Non-verbal communication)

African dance, which is based upon a close relationship with music and the integration of aspects from cultural and social life, is a form of physical expression or communication. It is an expression through the medium of the body as opposed to spoken or written forms of language, and is therefore a comprehensive form of human physical expression.

Millima haikutani, lakini binadamu hukutana

山と山は出会わないが、人は出会うものだ (スワヒリ語のこどわざ)

Mountains never meet, but human beings do - Swahili proverb

Types of dance : Folk dance and Artistic (Theatre) dance

Dance can be separated into two general categories, folk dance and artistic (Theatre) dance. These two basic forms of dance are distinguished according to their characteristics of transmission, social significance, and actual movement. Folk dance is that which is passed on from parents and elders to the younger generation, and incorporates religious and spiritual elements. Thus it belongs within the context of specific communities and is performed, not for an audience, but within the social context of the community. Artistic dance, in comparison, is passed on within a select group of professionals, and is performed specifically as entertainment for an audience.

B. Characteristics of African Dance

(アフリカの舞踊特性)

Collapsed body posture

Body posture with the torso tilted forward and knees bent, can be commonly observed in Africa. Helmut Guenter has identified this apparently collapsed body posture as a distinctive characteristic of African dance.

Poly-centric movement

African dancers respond or react to the various musical rhythms by using different parts of their body in what Guenter refers to as poly-centric movement: that is, movement having not one center but many, meaning that each part of the body moves around its own axis rather than the whole body moving as one.

Isolation

It is the technique of the poly-centric movement.

Multiplication

That is movement whereby the dancer moves different sections of her or his foot as opposed to moving the whole foot.

Collective Participation

Dance and music also tends to be group-oriented, with little or no solo performance. Everyone gets to participate in African dance, from the king and his entourage through to the farmers living on the outskirts of the villages and towns.

C. Meaning of African Dance

(アフリカの舞踊の意味)

Religion

Dance and music, especially Folk dance and music as a mean of worship to the deities, is always

performed. Dance, which in Africa unities body, mind and emotion in an expressive action based on repetitive rhythms, is an integral element of all religious ceremonies, for example when praying to God for a bumper harvest of crops, prosperity of the people, good health and so on.

Recreation

For entertainment people dance especially an artistic dance. This reflects no worship to God.

Communication

Dance and music can be seen to develop a "dialogue" between dancers or with God, musicians, audiences etc.

Healing

Dance is also one way of healing the people physically and mentally.

Coupling/Dating

Dancing provides a chance for people, especially of the younger generation, to meet a partner for life.

演者 2 Julius Charo Shutu
ジュリアス チャロ シュトゥ(ドラマー)
演題 Kenyan Songs and Music
ケニアの歌と音楽

He gave a lecture and performance of music from some selected Kenyan communities, especially Giriama.

ケニアの中から特に、ギリヤマを抽出し、その社会の中で歌われている歌や音楽の意味について太鼓演奏も交えて解説した。



右 : 講演会場でドラム演奏を披露するジュリアス講師
中央 : 踊りを実演する イディ ダンサー
左 : 遠藤講師

2. 研究報告

ウガンダ・カラモジャの牧畜民ドドスの調査から～「土地」と集団間関係

河合香吏（静岡大学人文学部）

ドドスはウガンダの北東部・カラモジャ地域に住むウシ牧畜民である。「土地・自然資源の認識・利用・領有」をテーマに調査をすすめているが、ドドスの集落に住み込んでの調査は今回が2度目である。ここでは、土地と集団間関係についての印象を、ごく簡単に記しておきたい。

牧畜民をふくめて、狩猟採集や焼畑農耕などを生業基盤とし、自然と密接にかかわりながら生活する人びとが自然界の事物や環境に対して詳細な知識をもっていることはよく知られている。ドドスの土地に対する知識も例外ではなく、地勢や植生、表面水や伏流水の季節的变化、岩場や枝沢などの微地形にいたるまで、その景観特徴とともに利用価値が熟知されている。だが、土地・自然資源の利用はドドスの内部で完結しているわけではない。土地は民族の歴史とポリティックスの現場でもあり、自然資源の利用においても、複数の隣接集団間における敵対・同盟の錯綜した関係を背景に、調整と葛藤のなかで微妙なバランスがたもたれてきたといつてよい。ドドスにおいては、とりわけ国境をはさんで隣接するトゥルカナとのあいだに、友好時の相互利用、敵対時における緩衝地の形成、他集団の侵入を「許容(黙認)する」ことによる一時的なテリトリーの拡大や縮小、姻族や友人など個人的な関係を頼って他集団の土地を利用するなど、多彩な土地利用の形態がみとめられる。



ドドスの少年が私のノートにいたずら描きしたウシの絵。
「二頭の雄ウシが“闘っている”ところ」

近代的な土地所有制度は、人を特定の範囲の土地に張り付けて、これをワンセットにして管理・操作するといったように、「固定化」の論理を基本とす

る。いっぽう、牧畜という生業が特定の土地の私的所有とは距離をおいた「移動」を旨とする生活様式によって成り立っていることのみならず、トゥルカナとの関係からもわかるように、ドドスの生活・活動の場と、そうした土地に対する利権やアクセスの親疎は、他者との関係のなかで時と状況と文脈に応じて柔軟に変化しうるものである。そもそも、他者との関係自体が非固定的で文脈依存的なものであるといったほうがよい。トゥルカナはつねにドドスの「敵」ではないし、トゥルカナとドドスが敵対的な関係にあるときにも、ひとりのドドスにとってトゥルカナのすべてが「敵」であるわけではない。彼にはトゥルカナの友人もいれば、通婚関係を介した姻族もいるのである。

おそらく、「テリトリー」といった概念はこれらの社会にそぐわない。トゥルカナが家畜を連れてドドスの生活・活動圏において水場や放牧地を利用しているとき、人びとは「トゥルカナがウシを連れてウガンダにきている」という。つまり、両者の境界を示すためには、「ウガンダ」という近代国家における国境という用語をつかうほかないのである。

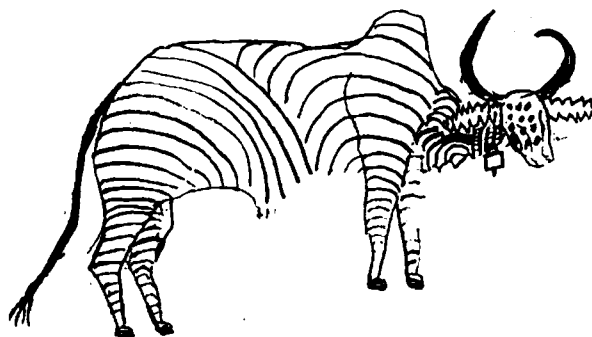
「ドドスの土地」という言葉はある。だがそれは、明白な境界線をもつスタティックで排他的な「テリトリー」といったものではまったくない。人びとがトゥルカナの動きに敏感なのは、レイディングによって「ウシが奪われる」ことを警戒するからであり、自らの生活・活動する土地が侵略されるような事態が想定されているわけではない。

牧畜民同士のレイディング合戦については、その武装化と過激化が指摘されてきた。国境地域における集団間の敵対関係の激化には、ウガンダ・ケニア両国政府の指導のもとに平和協定がかわされる頻度がましているが、その効果はせいぜい数週間停戦が続けばよいほうである、というのが現状である。いっぽう、カラモジャ地域の非武装化に力を注いできたウガンダ政府は、非合法に所持されている銃の回収をめざし、2002年1月2日を最終期限として人びとに不法銃の自主的供出を求め、それ以降は国家権力に訴えて無条件に銃を召し上げる「刀狩り」を強行しつつある。また、若者を中心に（銃をもって）LDU [Local Defense Unit] へ入隊することを要請し、さらに国境地域には軍隊を派遣してトゥルカナの侵入に対する防衛にあたらせるなど、セキュリティの回復に本格的にのりだしている。

アフリカ諸国が国家としての統合を形成・強化してゆく過程において、乾燥地という厳しい自然環境下におかれた、いわゆる「辺境」に暮らしてきた牧

畜民の社会や文化もその外部ではありえない。土地・自然資源をめぐる認識と実践という問題系もまた、ドス社会がおかれた現代的な状況をふまえて、民族集団の歴史や集団間関係、国家政策との関係をもふくめた「生」の現場から、再考察してゆく必要がある。そのためにも、土地利用・土地所有の形態や制度論といった側面のみならず、さまざまな文脈において生起する人びとの具体的な実践から、人びとの生活世界ないし「生」の全体を包括的にとらえてゆかねばなるまい。

EMONG NIGOLI GIRAPUS



ドスの青年が描いた去勢ウシの絵。

体側には焼ごてで縞模様をつけ、角は左右逆方向に湾曲するように矯正し、耳は「teba」と呼ばれる型に切った彼のお気に入りの去勢ウシである。

3. ホームページ開設のお知らせ

2002年3月当センターのホームページを開設いたしました。アドレスは、次の通りです。これに伴いまして、ニュースレター「ふくたーな」の郵送を可能な限り簡略化していきたいと思っています。

<http://www.jspsnairobi.org/>

4. 編集後記

ナイロビに赴任してきてはや1年。この間いろいろなことを体験し、様々な研究者にお会いし、貴重な知見を得ることができました。2002年3月末日をもって、駐在員の任務を終了させていただきます。ケニアでは、さまざまな方々や関係機関にお世話になりました。心から御礼申し上げます。(2001年度駐在員・遠藤保子)

2002年度駐在員として名古屋大学から来ました桂田祐介と申します。今回のケニア滞在は私にとって初めての海外で、驚きの連続です。何もかもが初めてでまだまだ分からないことだらけなので皆様のお世話になることもあるかと思いますが、これからの1年間どうぞよろしくお願いいたします。(2002年度駐在員・桂田祐介)

ふくたーな第22号 日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターニュース

発行日2002年4月1日

編集・発行者 遠藤保子 編集協力者 吉田尚生

発行所 日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター

本誌の掲載記事を転載する場合は、事前にセンターまでご連絡下さい。本誌の中で署名のある記事についてはそれぞれの主張・意見は執筆者個人のもので、日本学術振興会の見解を反映するものではありません。

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE,
RESEARCH STATION NAIROBI

P.O.Box 14958, Nairobi, Westlands 00800
KENYA

PAR AVION
VIA AIR MAIL